

序章

ようこそ深化する学びの世界へ

「現場」と研究の結節点 ～通信制大学院で学ぶということ

社会福祉学専攻教授 三浦 剛

東北福祉大学通信制大学院には特徴があります。

それは、多くの「現場」の人間が多く集うことです。「現場」の人間というのは「専門職」とは限りません。たとえば、自分の経験を、同じ思いをしているだろう方に伝えたいと考える、障がいがあるお子さんを育てた方や、退職後、これまでの仕事を振り返り、まとめたいと考える方などです。それに、多くの方は、まさに今、専門職として働きながら、その専門性を高めたい、その証明として資格を取得したいとする方です。今から30年以上前ですが、私も自分の実践を科学的に評価する方法を学びたいと思い、就職後に大学院に進学しました。当時はまだ、やっと夜間課程が開かれ始めた頃で、また私の場合は、実験系の研究室で学びたかったので、児童施設の夜勤職員をしながら昼間課程へ通学しました。

通信制大学院は、多様な経験、多様な目的を持つ方が学ぶ場ですが、そこでの学びには守られなくてはならない二つのことがあると考えています。

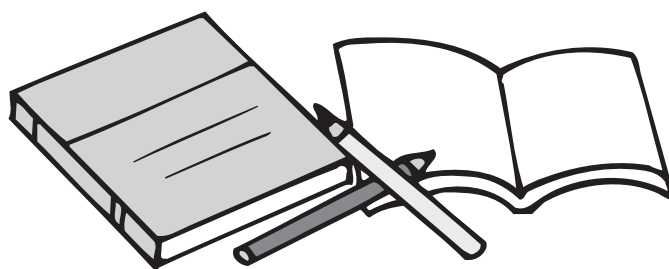
ひとつはその学問領域の研究としての「枠組み」を明確にもつこと、もうひとつは一定レベル以上の「研究方法」を身につけることです。

研究の枠組みをもつために、たとえば社会福祉学専攻では、哲学を基盤とする社会福祉原理論、社会福祉理論史の学習に多くの時間を割かなくてはならないと思います。またアメリカで体系づけられてきたソーシャルワークの視点、モデル、アプローチといった枠組みを、自分のことばで説明できなくてはならないでしょう。現代社会を理解するためには、占領軍によって急速に福祉国家化が求められた、日本の社会福祉制度の特徴を理解しなくてはならないでしょう。これらのことは、どのような目的、経験、学問のバックグラウンドを持った方でも、大学院生として必須の学修です。

もう一つ求められる、「研究方法」の学びとは、研究の「作法」を身につけることです。研究とは、それぞれの目的、興味や対象が違って必ず守らなくてはならない「作法」があります。それをふまえないものは、どんなに独自性の高い研究であっても「奇想天外」とは言えず「荒唐無稽」となってしまいます。想像で書く、まさにフィクションや、根拠を示す必要のない感想文となってしまいうでしょう。

作法のひとつに、統計的方法の基礎を身につけることがあります。パッケージソフトに頼り切ることのない、検定や推定の基礎知識を学ぶことです。このような知識と技術は、研究者にだけ求められるのではなく、専門職として「根拠の示せる実践」をおこなう上でも必要となります。仮説を立て、有意水準をもとにその仮説を検定していく仕組みを理解することは、科学的方法の基礎です。また、近年は質的研究、事例研究が盛んになってきました。ナラティブ（語り）などをデータとして「その人の中にだけある真実」を分析し、何らかの知見を見つけていく方法です。このような方法では、オーソライズされている研究方法のステップを、いかに正確に踏めるかが最も大切になります。

多様な経験、多くの目的を持った方が集うこの大学院で、研究の枠組みをしっかりと作り、正しい研究方法を身につけて、本学の建学の精神「行学一如」を具現化するような研究をしていただきたいと思います。まさに「現場」と研究の結節点で、私たち教育スタッフも、皆さんの経験から多くを学びながら、皆さんとともに進んでいきたいと考えています。



修士(社会福祉学)を目指す方々へ—修士論文作成方法序説—

社会福祉学専攻教授 田中 治和

2002年4月に本学に通信制大学院が開設され、私も主査（指導教員）として相当数の修士論文を担当して参りました。この小論では、その経験から考えた修士（社会福祉学）を目指す論文作成の進め方について、若干の助言また苦言を述べ、参考文献を紹介します。

主張したいのは、次の二点です。

1 社会福祉学の基礎文献を読むこと。2 学術論文の基本的な書き方・まとめ方を学習すること。つまりしっかりと基礎・基本を踏まえたうえで、院生各自の修士論文のテーマに取り組んでもらいたい、これにつきます。基礎・基本がなくて、急に論文を書くことは、準備運動がなく長距離走をやることであり、パソコン等を初期設定なく立ち上げた状態と同じです。少なからずの院生が、修士論文が書けない、まとまらない…と躓く理由の大半は、ここにあります。書けない、まとまらないのではなく、厳しいようですが、書けるはずも、まとまるはずもないのです。だからこそ、焦らずに基礎・基本から学習と学修を行ってください。

第1に、社会福祉学の基礎文献の読み込みの大切さについて。

社会福祉実践の展開する場は、“学際的”です。また近年の学問分野・諸科学の動向は、複合化、総合化にあります。（これらの論点は、すでに半世紀前に『大塚久雄著作集第九巻／社会科学の方法』が明らかにしています。）社会福祉学研究を、単に“学際的”という文言を付すだけでは、何も意味しておりません。時折、院生（福祉学部系以外の出身者及び福祉学部出身者）から、「社会福祉学は曖昧であり、その共通理解の枠組みもない等々」との意見があります。しかしながら、社会福祉学を体系的把握する努力を、例えば社会福祉理論史、つまり最低限、明治期の慈善事業思想、大正期の社会事業理論、昭和初期の厚生事業理論、戦後の社会福祉理論の梗概を、さらに日本社会福祉学会、日本社会福祉教育連盟（現・日本ソーシャルワーク教育学校連盟）の歴史を点検・吟味した上で、「社会福祉学は…」の発言をされて欲しいのです。また院生の最初に掲げる研究課題も、すでにこれまでの社会福祉学研究において、一定の論点整理がなされている事が多いといえます。

それゆえ、先行研究を丁寧に調べてください。そして目指されている学位は、修士（社会福祉学）からしても、社会福祉とは何かという本質を考え、各自の研究（修士論文）が、それといかに連関するかの考究も必要です。そのためには、図書館の活用です。本学図書館には、海外文献も含め社会福祉学の基礎文献、及び新着雑誌等も十分準備されております。是非、図書館に足しげく通ってください。遠隔地の方も、スクリーニング時に利用してみてください。本学図書館は、歴史的かつ蔵書数からしても、日本有数の福祉学系図書館の一つです。

第2に、いかなる専攻分野であれ、極めて基本的事項として、修士論文の書き方・まとめ方の学習が不可欠です。以前は、論文の書き方等は、主に指導教員、時には博士課程や修士課程の先輩の方法を真似る＝学んで、そこから院生各自が自学自習をし、次第に自分の論文の書き方・まとめ方を獲得していくという方法でした。つまり論文の書き方等は、院生にとって暗黙の事前学習であり、あえて教員側か

らそれを問う必要はありませんでした。だが現在の大学院進学者の状況からは、今一步具体的に説明しておかなければなりません。そのため履修科目に「社会福祉学特別研究Ⅰ」が開設されています。

また、論文の書き方等の書籍は数多く出版されていますが、以下、その中でも比較的安価で入手しやすいものを紹介しておきます。なお、これに拘わらず、院生各自が、書店で実際に手にとって相性の良い『論文の書き方・まとめ方』の本を購入することが、修士論文作成の第一歩となります。

文献を紹介します。

斎藤孝・西岡達裕『学術論文の技法 新訂版』（日本エディタースクール出版部、2005年）、いわゆる正統派でロングセラーの論文の書き方の本といえます。私はこの本の初版（1977年）で、修士論文を作成しました。

小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2018年、新書版とコンパクトですが、レポートや論文の書き方の要点を丁寧に説明されており、初学者向きと思われます。

1 心理学を活かすということ

みなさんの入学動機はさまざまであると思われますが、おそらく「心理学を何らかの形で役に立てたい」という熱意は同じではないでしょうか。心理学は実学、つまり実際に役に立てることができる学問とも言われ、心理という観点から支援を必要としている人を幸福に結びつけることができる学問とすることができます。

心理的な支援を担う立場には、大きく2通りあります。1つは、公認心理師や臨床心理士、その他の心理系の資格を活かし「職業としての心理臨床の専門家」として福祉、医療、保健、教育その他の現場で活躍することです。しかし、一方でそれら専門家に限らず、心理学を日常に活かせる場面は無数にあるはずです。

通信制大学院福祉心理学専攻で学ぶみなさんには、これまでの豊富な経験をふまえ、今後活動するあらゆる場面において「心理的支援も提案できる〇〇（〇〇にはあらゆる立場、役割が入り得ると思います）」を目指して頂きたいと思います。

2 幅広く心理学に興味をもつ

大学院では様々な科目が準備されていますが、みなさんの興味・関心をピンポイントで解明してくれる科目はありません。同じような心理現象でも心理学の分野や教員によって解釈や理解が微妙に違うものです。例えば「アヴェロンの野生児」の事例を「環境の重要性」と考える立場もあれば、それを疑問視する立場もあります。この子が何才の時から人間社会から離れ、一人で生き延びたのだろう、と想像を巡らせることができれば、おのずと様々な疑問がわきあがってくるはずです。自分の興味の対象外に思える科目もあるかもしれませんが、幅広く学ぶことにより新たな疑問が生じ、研究テーマに発展することもあるでしょう。また生じた疑問の解明を自分なりに統合することで人間の心理を様々な視点から理解する力がつくと思います。

3 心理学を実践する力

例えば「親の育て方が原因で、子どもが問題行動を起こしているので支援計画をたてたい」と「感じる」ケースの場合、まず関連する様々な現象について、文献や先行研究論文をあたってみる必要があります。例えば「親の育児態度と子どもの行動特徴との関連」「子どもの気質」「親子の相互作用」その他様々な情報がみつかると思います。

ここから目の前にある支援に合った方略を見つけ出すことが大切です。人間は一人ひとり違う存在ですので、すべての人に効果的な心理的支援などないわけです。対象者の状況をよく理解しながら、「今回はこう働きかけてみよう、次は別の可能性を探ってみよう」と試行錯誤することになります。試行錯誤と言っても、思いついたことをやみくもに試すのではなく、先行研究などを参考に「この先行研究で

言われていることにはこの視点がたりない、この要因が考慮されていない」「他の可能性はないだろうか」などの疑問が出てくるものです。その疑問がみなさんの研究課題、修士論文につながっていくかもしれません。

心理的支援は山登りみたいなものですから、正解はありません。対象者に合った登山道を使い、最後は登りたいところまで登ることを支援できればそれで成功です。その登山道の選択肢を増やしてくれるのが大学院での学修になると思います。

4 修士論文の準備 ～心理学研究法の大切さ～

さて、研究活動のまとめとして修士論文を完成させることになります。みなさんの心理的支援の試行錯誤の記録をそのまま論文にできるわけではありません。心についてある程度一般化できる考察をするためには、客観的なデータや分析が必要です。

みなさん一人ひとりの「心についての疑問」が研究テーマになります。それを科学的、論理的に実現化するためには、独立変数と従属変数、データのとり方、因果と相関、統計的手法、研究倫理の問題や引用・参考文献の記載方法など、いわゆる「心理学研究法」を理解しておくことが重要です。例えば、みなさんがこれから読まなければならない先行研究の中に「有意水準」「半構造化面接」と書かれていたら、すぐに理解できるような力が必要なのです。

また、親の育児態度と子どもの行動特性との関連が「統計的に有意」だったとしても、その研究が因果研究なのか相関研究なのかを理解しておかないと、考察や応用の方向性は全く変わってきます。その考察から応用される心理的支援は、必要以上に親を苦しめることになるかもしれません。私たちが持ちやすいスキーマは「育て方が子どもに影響している」というもので、「子どもが親の育て方に影響している」とは思いつかないものです。例えば「親が攻撃的なテレビをみせているから、子どもが攻撃的になる」というあらすじは頭に浮かびやすいと思いますが、一方で「もともと子どもが攻撃的であれば暴力的なテレビを好む」という可能性はないでしょうか。その場合「親が攻撃的なテレビをみせているから、子どもが攻撃的になる」という指摘は、親を必要以上に追いつめてしまいます。

以上のように、得られた情報を十分に活用するためには、心理学研究法の基本を早い時点で理解しておく必要があるのです。

5 さいごに…

大学院での学修や研究に不安を持っている方もいると思います。それについては「積極的に動いてください！」ということに尽きます。

心理学研究の基本は、誰かに刺激を与えてその反応を集めるという作業です。レポートなどの提出は「刺激」であり、教員からのコメントは「反応」です。再提出になったとしても、「刺激を何回も与えて、その反応を何回も確認できる」ことによって、教員の考え方や大切にしていることをより正確に把握し、みなさんの中で知恵にすることができるはずです。同じ教員と何度もやりとりができるのですから、学習性無気力に陥る必要はありません。

また、修士論文は作成過程で、研究計画に無理が生じたり被験者の確保が難しかったりなどの理由で研究の内容が変わっていくものです。仮説を検証するためには扱う要因の数を絞り込む必要があるため、「興味は有るけど今回は扱えない」要因がでてくるのは仕方のないことです。

こういった仮説の検証は無駄に思えるかもしれませんが、しかし、どのように計画を立て、やってみて、結果を分析して振り返る、という経験は、ものごとを科学的・論理的に考える力になり、将来、他者への心理的支援を考える際にも必ず役に立つと確信しています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学通信制大学院の「修了資格＝学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は下記のとおりです。修了時に下記のような力が身につけているように在学中の学修を積み重ねてください。

専攻ごとに、下記のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した院生に修了を認定します。

社会福祉学専攻

1. 学生が身に付けるべき資質・能力の目標

社会福祉に関連する学問分野の諸問題を解決するための研究力や実践力を修得している。

2. 学位授与の要件

所定の科目を履修し、かつ社会福祉に関連する学問分野の諸問題を解決するための研究力や実践力を修得したと評価するに値する成果（修士論文）を提出できた人に修士の学位を授与します。

福祉心理学専攻

1. 学生が身に付けるべき資質・能力の目標

- 1) 応用心理学全般の基礎的素養と発達心理学および臨床心理学に関する専門的知識・技法を習得している。
- 2) 心理学に関する研究課題を自ら設定し、専門的知識や技法を用いて、心理学研究方法の方法を使い研究をすることができる。
- 3) 社会や各種職域の変化や要請に対して福祉・心理・社会の多次元に渡る広い視点を持って対応することができる。
- 4) 心理学の専門的知識、心理学的実践活動、そして心理学研究の3領域を互換的に総合することができる。
- 5) こころの健康の援助、家族関係の援助、社会福祉の援助、発達援助、地域活動の援助、災害・被害への援助、心理的・社会的適応の支援などを実践できる。

2. 学位授与の要件

教育目標を理解し、必修科目および修士論文を含む30単位以上を修得すること。